



「そうじゃ、戦いをせんでも…」

龍馬伝より

(社) 島根県建設業協会出雲支部
支部長 中筋豊通

平成22年 春 新しい年度が始まりました。

出雲支部も役員改選が行われ、再度支部長を拝命、今岡余一良氏、長岡秀治氏、荒木國夫氏、今岡裕統氏、4名の副支部長を始め会員の皆様とともに、この難局を乗り切っていく覚悟でございます。どうか宜しくお願いします。

さて、毎週日曜夜8時、大河ドラマ「龍馬伝」を楽しく見させて頂いていますが、龍馬と勝麟太郎との会話が私の頭の中から離れません。

「日本は島国ですらう。異人はみんな海から来るわけですから、それに立ち向かうには、強い海軍がないと
いかんろう」

「軍艦の大筒で、異人どもを蹴散らせてことかい」

「いえ、そういうことではないですけど」

「じゃあ何だい。海軍を持ちゃあどうなるってんだ」

「わしは千葉道場で剣術を学び、北辰一刀流の目録をもらうたがです。おこがましい言い方をしたら、わし
は、強いがじゃ」

「何が言いてえんでえ」

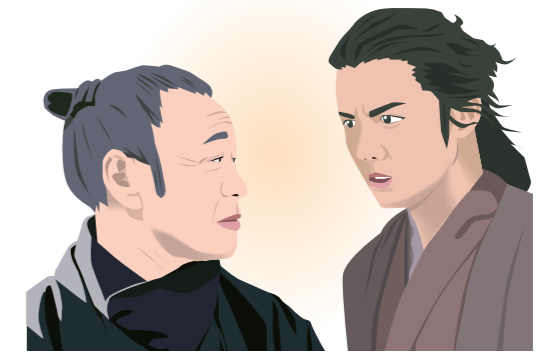
「けんど、わしは人を斬ろうとは思わんがです。そもそもわしが強いと知っちょう者は喧嘩を吹っかけてきま
せんき。

今、日本が異国の言いなりになっちょうがは、戦いになったら負けることがわかつちゆうきぜよ。けんど、強い
海軍さえあつたら、誰ちゆう負けん剣の腕があつたら、戦いにならん。

そうじゃ、日本はもう開国しちゆうがじゃき、技術を学んで日本の軍艦をどんどん造つたらえいがぜよ、ほんで
ほかのこともどんどん取り入れて異国と渡り合えるほどの文明を持つたら、日本は安泰となりますけに。

そうじゃ、戦いをせんでも攘夷が成し遂げられますきに」

厳しい環境下の建設業界、龍馬の言葉の中にヒントがあるのでは…



強い海軍さえあつたら…

誰ちゆう負けん剣の腕があつたら…

異国と渡り合えるほどの文明を持つたら…

強いと知っちょう者は喧嘩を吹っかけてきませんき…

戦いをせんでも攘夷を成し遂げられますきに…

強い出雲を造るには、龍馬が言うように土佐だ、長州だ、薩摩だ、そんな狭い考えを捨てることから始めなければなりません。

会員による社会貢献活動として、県土整備事務所長との「災害時における応急対策業務に関する協定」、島根県知事との「家畜伝染病発生時における防疫対策業務に関する協定」を結んでいます。地域の安全と安心を守るには結束力と連携が大切で、団結力が不可欠、喧嘩をしている場合ではありません。

次が優れた技術力を持っているかどうかです。家も橋も道路も、作って終わりではありません、メンテナンスや維持管理のためにも、迅速に対応が出来る地元の建設業が一番です。地の利に甘えることなく、顧客目線で技術力を磨かねばなりません。

さらに素晴らしい街・都市造りを目指すには、既成概念に囚われない創造力が問われるでしょう。地域の良さを知っているのは地域の企業です、人口減少の中で外貨を稼ぐためにも、観光立県島根の構築、そしてその中で「出雲」をどう活かすか。また高齢県島根で老・壮・青が生きがいを持って暮して行くにはどんな街造りをして行くのか…。

私たちは都市造りのプロです。それぞれの企業のためではなく、社会のためという発想で、様々な目線で地域を「出雲」を見直して行かねばなりません。人から与えられた事をやる時代は終わったのです、待っていたのでは何も変わりません。知恵を出すのです、自らの発想で道を切り開く時が来たのです。

いまやらねば いつできる、わしがやらねば たれがやる ひらくしてんちゅう (平衛田中の言葉より)

皆さん 「出雲」のために頑張って行きましょう。

ありがとうございました。



着任のご挨拶

国土交通省出雲河川事務所
所長 平山大輔

4月1日付けで、中国地方整備局 出雲河川事務所長を拝命いたしました平山と申します。貴協会ならびに会員の皆様方におかれましては、斐伊川水系の治水対策および河川環境の保全にご理解ご協力を頂いておりますことと、平素の企業活動を通じて、地域社会の発展にご尽力されておられることに厚く御礼申し上げます。

斐伊川は「古事記」の「八岐大蛇(やまたのおろち)説話」にありますように、古来より氾濫を起こしては流域に多大な被害をもたらすことで恐れられてきました。流域一帯をあたかも八つの頭を振り回す大蛇(おろち)のごとく西流、東流を繰り返し、川面に浮かぶ砂州はまさに鱗のようであり、鉄分を含んだ土砂は大蛇の血を連想させます。昭和47年の洪水では戦後最大の被害をもたらし、中海で既往最高水位、宍道湖では観測開始以降2番目の水位を記録しました。

昨年度末、皆様方から治水・利水・環境に関するご意見を頂いて、八岐大蛇退治の現代版ともいえる「治水事業の3点セット」を盛り込んだ斐伊川水系河川整備計画原案を策定しました。

斐伊川の整備計画原案では、「上流部、中流部、下流部、湖部の流域全体・水系全体としてバランスよく治水安全度を向上させる」ことを基本的な考え方としております。上流のダム群建設の他、中流部において放水路の建設を着実に推進するとともに、下流部の中海湖岸堤については整備優先順位を明確にし、大橋川の改修につきましても地域の方々のご意見を伺いながら、早期に着手してまいりたいと考えております。また、中海及び宍道湖はラムサール条約登録湿地であり、連結汽水湖が生み出す豊かで多様な動植物が息づく良好な環境及び景観を次世代に引き継いで参ります。

今後も、出雲河川事務所としては、**地域から愛され、信頼される事務所を目指し、地域の皆様方のご意見に真摯に耳を傾け、「流域」全体の視点から流域に暮らす一人一人の安全安心の確保や豊かな環境の保全**に努めて参りますので、引き続き、より一層のご支援・ご協力を頂ければ幸いです。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と会員皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして着任のご挨拶とさせていただきます。



着任のご挨拶

出雲警察署
署長 大田忠司

本年3月25日付けで出雲警察署長に着任いたしました。管内の治安責任者として、安全と安心を確保した良好な治安維持に署員一丸となって全力で取り組みますのでよろしくお願い申し上げます。

協会の皆様方には、平素の企業活動を通じて、地域社会の発展にご尽力されておられることに敬意を表しますとともに、暴力追放や交通安全活動をはじめとする警察業務の各般にわたり、格別のご理解とご協力を賜っていることに対し厚く御礼を申し上げます。

出雲、斐川地域は弥生時代の古墳や、荒神谷遺跡の青銅器群をはじめとする歴史的な史跡が数多く存在し、また、広大な斐川平野や、日本海の海岸線等の豊かな自然に囲まれた風光明媚な土地であり、そこに暮らす住民の皆様も大変、民情豊かな方々であります。

一方本県では、昨年全国を震撼させる浜田市における女子大生殺人事件が発生し、事件解決に向けて県警察を挙げての捜査を展開しているところであります。また、当署管内でも殺人事件が発生しており、解決したとは言え、体感治安を回復するためには今後警察の一層の努力と皆様のご協力が不可欠であると考えております。

そのため、出雲警察署では、本年の運営指針を「**県民とともにある力強い警察**」として、

- **安全・安心なまちづくりの推進**
- **重要犯罪等の徹底検挙と組織犯罪対策の強化**
- **交通死亡事故の抑止**
- **テロ、災害等緊急事態対策と警衛諸対策の推進**

の四本柱を重点に、『日本一治安の良いいずも』を目指して、職員一人一人が誇りと使命感を持ち、各業務に取り組んでいきます。

良好な治安の確保には、街頭における警察活動の強化を図ることはもとより、地域住民の皆様のご理解とご協力が不可欠であり、とりわけ住民の皆様による自主的な取り組みと関係機関・団体が連携した「協働活動」の推進が必要であります。

当地域では、住民の皆様「地域の安全は、地域の手で守る」という防犯意識が非常に高く、防犯ボランティア団体・パトロール隊の組織化や青色防犯灯の設置が全国に先駆けて積極的に行われているほか、飲酒運転の根絶につきましても、職場や地域の多数の方々「飲んだら乗らない・乗るなら飲まない・乗るなら飲ませない」の三無運動の実践を署名により提出されるなど、積極的かつ進取的な取り組みが行われております。

これらの活動は、地域の防犯力を高め、各種犯罪・事故の抑止に多大な成果となっており、大変心強く思うとともに心より感謝しているところであります。

警察といたしましては、今後とも協会の皆様と緊密な連携を図りつつ、安全・安心な地域社会の実現に取り組みますので、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、貴協会の益々のご発展と会員ご一同様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして着任の挨拶とさせていただきます。